

Contents

①② 特集「フェアトレード」

③④ SIA NEWS

- 外国籍学生びわこ奨学金授与式
- キャリアデザイン研修「職業人と語る会」
- 未来のための進路ガイダンス2015 ○「滋賀県の友好省 中国湖南省へ」
- ミシガン州からの友好親善使節団が来県！

⑤ 今、この人に Interview

外国人の機能別消防団員 王 驥(おうき)さん

⑥ おしえて世界のこと 「お葬式の様子やルール」

人と人をむすぶ、
人と世界をむすぶ

Shiga Intercultural Association for Globalization

公益財団法人 滋賀県国際協会

〒520-0801 大津市におの浜1丁目1番20号 ビアザ淡海2階

TEL.077-526-0931 FAX.077-510-0601

E-mail: siamail@mx.bw.dream.jp URL: http://www.s-i-a.or.jp

特集 フェアトレード

フェアトレードとは、「開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す『貿易のしくみ』」*をいいます。

以前は、フェアトレードと言えばコーヒーが定番でしたが、最近ではコットン製品や食品をはじめ、様々な商品がフェアトレードとして取引されるようになり、商品の幅が広がりを見せています。また、購入する側にとっても、「気軽に出来る国際協力」として関心が高まりつつあります。

そこで、今回は、大津市内でフェアトレード事業に取り組んでおられるNPO法人HCCグループ代表者の浅野智子さんに、その活動についてご紹介いただきました。

*) 特定非営利活動法人フェアトレード・ラベル・ジャパンホームページ「フェアトレードの定義」より

消費者が、経済的にも社会的にも生産者と共に歩みつつける仕組みを届けています

NPO法人HCCグループ代表 浅野智子さん

■公正な取引によって開発途上国を支援する
「フェアトレード」

フェアトレードを日本語に直訳すると「公正取引」や「公平な貿易」となります。普段何気なく飲んでいるコーヒーや紅茶、チョコレート等は、アフリカや南米の各国、アジアではインドなどの開発途上国から輸入されますが、例えばコーヒー1杯の場合、私たちが口に入れる時点での価格のうち、現地の生産者に渡るのは、わずか1~3%だといわれています。残りの95%以上は中間マージンとしてグローバル企業の利益等に消えていきます。また、コーヒー等の嗜好品は「生活になくてはならないもの」ではないため、その需要に高い安定性を望むことは難しく、不安定な経済基盤の上に成り立っています。つまり、生産量が過剰になれば非常に低価格で取引されてしまう可能性があります。

こうした不公正な生産構造によって引き起こされる問題には、児童労働(国際労働機関(ILO)の2013年の報告書によれば、サハラ以南アフリカでは5人に1人の子どもが児童労働に従事)や農薬による人体への影響、環境破壊などがあります。

現状を少しでも改善していく取組のひとつがフェアトレードです。端的に言えば、私たち消費者が、経済的にも社会的にも生産者と共に歩みつつける公正な仕組みをつくり、維持していく試みといえます。

■滋賀県初のフェアトレードのお店

私たちは、2008年「Fair Trade Shopねこのひたい」をオープンしました。なぜ「ねこのひたい」か?それは、お店は猫の額ほどに小さいのですが、フェアトレードを通して世界の多くの方と交流していきたいという願いからです。

「ねこのひたい」で扱う海外の商品は、コーヒー、紅茶、チョコレートといったものの他に、パレスチナのオリーブオイル、タイやカンボジアの雑貨等があります。私たちは「顔の見える生産者やNGOとの信頼関係を大切にする」というポリシーを持って商品や取引先を選んでいきます。また、「慈善事業ではなく、持続性をもった事業にしよう」ということも大切にしてきました。例えば、開発途上国で干魃や災害が起きたとき、私たちは一時的に寄付をしたり、彼らの商品を買うことはできます。でも、もし、その商品の質が悪ければ、恒常的な顧客の確保や事業の継続は望めません。そこで、



▲フェアトレード商品のコーヒー(左)とチョコレート(右)

私たちは、自分たちが納得できる品質を持った商品の取り扱おうと決めました。滋賀でフェアトレードを謳ったはじめてのお店ということもあり、当初は「滋賀にも（フェアトレード商品を販売するお店が）できたんだね」といった反応でした。

フェアトレードを運営していると多くのことが学べます。例えばパレスチナのオリーブオイルが入荷できないという事態が起こった背景には、イスラエルが建設した分離壁や港での検閲のため商品の輸出ができない、つまり私たちが「当然」と思う取引が政治的圧力によって阻害されている現状があることを知りました。

また、カンボジアの製品を扱う方からは、内戦後の子どもの教育環境を整えるために、現地の女性たちが日本の消費者のニーズに合うよう苦心を重ねて商品開発をしているといったことも教えていただきました。こうした商品が持つ背景について、お客さまとお話する機会がもてるのも、わたしたちの励みです。

一方、わたしたちは、フェアトレードの商品が、味覚や嗅覚、視覚など五感全てにおいて豊かで品質のよいことに自信を持っています。お客さまから「本当に美味しい」「かわいらしいし、使い勝手がよい」などの言葉をいただいたり、リピーターになっていただいたりするのになにより嬉しいです。

■お買い物を楽しみながら、身近な社会貢献を実感してほしい

さて、「Fair Trade Shop ねこのひたい」は、今年の5月、「Charity Box Shop ねこのひたい」としてリニューアルオープンしました。それは5年以上の経験の中で、フェアトレードを通して世界各地の方々と共

にいることの大切さはもちろんですが、購入される方が、「共に生きる」ということを意識して、楽しんでいただけたら、という思いからです。

「Charity Box Shop」で何が起こるかという、フェアトレードの商品をお買い上げいただくと、売上の10%は国内外のNGO等に寄付するのですが、その寄付先を商品の購入者に選んでいただくという仕組みです。この仕組みを取り入れてから、お客さまとの会話が非常に多くなりました。「そんな取組があるんだね」「どれも大切なのでどの団体に寄付したらいいか悩む」などの声が聞こえてきます。お客様が楽しみながらも主体的に寄付先を選ばれている姿を見ると、身近な社会貢献を実感していただけているのを感じます。

みなさんも身の回りにあるものが、どんな過程で自分たちの手に届いているのか、イメージを膨らませてみませんか？そして、よろしければ、私たちの小さな「ねこのひたい」に遊びにいらしてください。秋冬にはチョコレート（乳化剤が入っていないので秋冬限定）や15か国のコーヒー（12月下旬までフェア開催）の品揃えが充実します。きっと心も体も喜べる素敵なものを見つけていただけたらと思います。



▲「ねこのひたい」の店内

～ Charity Box Shop ねこのひたい～

滋賀県大津市長等2丁目9-1
まちなか交流館ゆうゆうかん1階
TEL: 077-525-6674
OPEN: 10時～18時30分(水曜定休)



▲この建物の1階にあります。

～もっと知りたい方へ～

フェアトレードは、第二次世界大戦後にアメリカの国際協力NGOが、プエルトリコの女性たちが作った手工芸品を本国で販売したことが始まりと言われていています。その後、慈善活動に理解のある人々だけでなく、一般の消費者をもターゲットとした市場の拡大が求められるに伴い、第三者が基準を確認し認証をする仕組みや認証された製品に「ラベル」を貼る仕組みができました。

●国際フェアトレード認証ラベル



国際フェアトレード認証ラベル

国際フェアトレード認証ラベルは、その原料が生産されてから、輸出入、加工、製造工程を経て「国際フェアトレード認証製品」として完成品となるまでの全過程で、国際フェアトレードラベル機構 (Fairtrade International) が定めた国際フェアトレード基準が守られている事を証明するラベルです。

[主な認証システム]

国際フェアトレード認証

(Fairtrade International 国際フェアトレードラベル機構)

WFTO

(World Fair Trade Organization 世界フェアトレード機構)

フェアトレードは、明確な法律や規定に則った活動ではないため、各団体の理念や定義、基準などもさまざまです。そのため、日本でフェアトレード商品を販売している団体等も独自の基準で商品の生産や販売を行っているという実情があります。消費者側も、商品に添えられた説明の内容やどのように生産・販売が行われているのかに関心をもつ必要があります。

外国籍学生びわこ奨学金授与式

■日時：2015年7月12日(日) 10:30～11:30
 ■会場：ピアザ淡海(大津市)

平成27年度のびわこ奨学生21名(高校生8名・県内大学の留学生10名・外国籍の大学生等3名)を決定し、

7月12日に奨学金授与式を開催しました。授与式に出席した高校生からは、「大学や専門学校への進学に向けて勉強に力を入

れる！」という決意の声、留学生や大学生からは、「出身国と日本の架け橋となり良好な関係づくりに貢献したい」「日本で学んだ知識を故郷や国際社会で役立てたい」等の抱負が述べられました。

このうち、留学生や大学生13名については、勉学だけでなく、「びわこ奨学生ボランティア」として地域の国際交流活動等での活躍が期待されます。



2015年度 外国籍学生びわこ奨学金授与式

公益財団法人滋賀県国際協会

NEWS 2 ●●●

2015年度外国にルーツを持つ高校生へのキャリアデザイン研修「職業人と語る会」

■日時：2015年7月22日(水) 13:30～16:30
 ■会場：滋賀県男女共同参画センター G-NETしが(近江八幡市)
 ■参加者：県内の外国にルーツを持つ高校生等 57名
 (県内公立高校10校、ブラジル人学校2校、日本語指導教室より参加)
 ■後援：滋賀県、滋賀県教育委員会、滋賀労働局、滋賀経済団体連合会、滋賀県進路保障推進協議会

今夏も、外国にルーツを持つ高校生を対象に進路の選択肢が広がることをねらいとしてキャリアデザイン研修「職業人と語る会」を開催し、過去最高の57人の参加がありました。どのブースでも職業人ゲストから熱心に話を聞く高校生たちの姿が印象的で、「もっと話を聞きたかったのに時間が足りなかった」という声が聞かれるほどでした。

今回は職業人ブースに加えて、現役大学生のブース



◀職業人ゲストの自己紹介。びわ湖放送の取材もありました。



▶溶接技師ブースで真剣に説明を聞いている様子

も初出展。年齢の近い外国にルーツを持つ大学生から、「諦めずに頑張れば、必ず道は開ける」と熱いエールを受け、「とても励みになった」と感想を寄せる高校生も少なくありませんでした。

また当日は、研修の一環として全国の教育関係者が視察に訪れられ、「自分たちの地域でも、是非こうした取り組みを始めたい」と、強い関心を示しておられました。

NEWS 3 ●●●

日本語を母語としない子どもと保護者のための「未来のための進路ガイダンス2015」

今年も、外国にルーツを持つ高校生や大学生の先輩や保護者からの話、そして県教育委員会より高校進学を中心に入試や奨学金、進学に必要な経費や高校の種類などについて説明をしていただきました。参加者は真剣な眼差しで説明を聞き、個々の相談時間でも熱心に質問をしていました。先輩からの「努力は裏切らない」という言葉が印象的でした。参加者の皆さんの夢が実現することを願っています。

■日時・会場・参加者
 ①2015年8月9日(日)
 近江八幡会場：滋賀県男女共同参画センター G-NETしが 参加者 23名
 ②2015年9月27日(日)
 長浜会場：勤労者福祉会館「臨湖」参加者 7名
 ■共催：長浜市教育委員会
 ■後援：滋賀県・滋賀県教育委員会

進路ガイダンスの資料(6言語)がご入用の方は、お気軽に当協会までご連絡ください。なお、資料はホームページ(<http://www.s-i-a.or.jp/gaikokuseki/mirai/index.htm>)からもダウンロード可能(PDF)です。



「滋賀県庁発 インターネットTVしが」で、上記事業が取り上げられた「Tudo Bem! SHIGA」(9/26放送分)が動画でご覧いただけます！
 テーマ：安心して暮らす・働くために～キャリアデザインについて考えてみよう～
 (http://www.pref.shiga.lg.jp/nettv/tudobem_shiga/2.html#v20150926)

NEWS 4 ●●●

湖と湖でつながって32年
滋賀県の友好省 中国湖南省へ

■期間：2015年8月9日(日)～12日(水) 3泊4日
 ■派遣先：中国湖南省長沙市(経由地：上海)
 ■派遣人員：県民交流団33名、高校生交流団15名
 ■内容：環境セミナー参加、知事と省長との交流宴参加、景勝地(岳麓書院)見学、一般家庭へのホームビジット等

中国南東部にある湖南省は、中国の代表的な湖「洞庭湖」を有し、近年では経済発展目覚ましい内陸地として注目を集めています。また、滋賀県とは友好省として、経済、環境保護、教育など幅広い分野での交流が行われています。今回、知事団、経済団にあわせて、県民交流団および高校生交流団を湖南省に派遣しました。

出発日は、台風の影響によりフライトが可能か懸念されていましたが、ほぼ定刻どおり湖南省長沙市に到着しました。翌日は、湖南省と滋賀県実施の環境フォーラムに参加。滋賀県側からは琵琶湖環境科学研究センターの内藤センター長の発表や、滋賀県および湖南省双方の高校生による環境に関するプレゼンテーション等が行われました。午後は湖南省平和堂五一家(1号店)に移動し、全団が一斉に店内視察と彦根市のひこにゃんや知事、県議会議長による滋賀県観光プロモーションの様子を見学しました。その後、岳麓山名勝地を訪れ、岳麓書院の見学をしました。

3日目、高校生団は全国高等学校総合文化祭「2015 滋賀 びわこ総文」で滋賀を訪れた長沙市第二十一中学を訪問し、現地の高校生と楽しい交流の時間を過ごしました。県民団は2～3名のグループに分かれ、省民宅へホームビジットを行いました。これは、滋賀県で受け入れた元湖南省技術研修生の家庭を訪問し、県民と省民との交流を深めることを目的としたもの



▲湖南省県民友好交流団のみなさん

です。各家庭では一緒に餃子作りをしたり、地元の食料品店や骨董市へ案内をしてもらったり、庭の畑の野菜を採りに行くなど、各々が観光旅行では味わえない体験をすることができました。中には、かつて滋賀県に住んだ経験から日本の大ファンになり、自宅を日本風の家具や調度品でしつらえている家庭もあったそうで、団員の方は大変感銘を受けたとのことでした。空港へ向かう際には最後までバスに手を振ってくれるホストファミリーもおられ、忘れられない思い出となりました。

今回参加した団員からは「これからも手紙やメールでのやり取りをして、交流を続けたい。今度、滋賀県に来られる時には我が家にも来てほしい」「ホームビジットに行く前は少し不安でしたが、滋賀県のことを好きでいてくださって話しも弾み、あっという間に時間が過ぎました」、高校生団員からは「情報が氾濫している現代社会だからこそ、直接自分の目で見て知ることが大切で、いつか国境を越えて世界中の人々がつながっていければいいなと思いました」といった感想が聞かれるなど、民間交流こそが交流の礎となることを改めて実感できる良い機会となりました。

です。各家庭では一緒に餃子作りをしたり、地元の食料品店や骨董市へ案内をもらったり、庭の畑の野菜を採りに行くなど、各々が観光旅行では味わえない体験をすることができました。中には、かつて滋賀県に住んだ経験から日本の大ファンになり、自宅を日本風の家具や調度品でしつらえている家庭もあったそうで、団員の方は大変感銘を受けたとのことでした。空港へ向かう際には最後までバスに手を振ってくれるホストファミリーもおられ、忘れられない思い出となりました。



▲環境フォーラム

今回参加した団員からは「これからも手紙やメールでのやり取りをして、交流を続けたい。今度、滋賀県に来られる時には我が家にも来てほしい」「ホームビジットに行く前は少し不安でしたが、滋賀県のことを好きでいてくださって話しも弾み、あっという間に時間が過ぎました」、高校生団員からは「情報が氾濫している現代社会だからこそ、直接自分の目で見て知ることが大切で、いつか国境を越えて世界中の人々がつながっていければいいなと思いました」といった感想が聞かれるなど、民間交流こそが交流の礎となることを改めて実感できる良い機会となりました。

NEWS 5 ●●●

ミシガン州からの
友好親善使節団が来県！

◆使節団概要◆

■日程：10月12日(月)～20日(火)
 内、15日～20日は姉妹都市等にて・ホームステイ
 ■使節団：33名 ■ホストファミリー：23家庭
 ■受入都市：大津市、彦根市、近江八幡市、草津市、甲賀市、高島市

滋賀県が姉妹協定を結んでいる米国ミシガン州より33名の友好親善使節団員が来県され、10月15日(木)～10月20日(火)の5泊6日、県内の姉妹都市等のご家庭でホームステイを体験されました。ホームス



▲歓迎式典

テイを通じて、団員も受け入れ家庭もアメリカと日本の文化や生活習慣などの違いを体験され、言葉を越えた交流を楽しまれました。

今、この人に Interview

外国人の機能別消防団員 **王 驥**さん



外国人と日本人との架け橋に。 滋賀で暮らす外国人を支援し、地域の人と交流したい。

■交換留学で日本に来られたそうですね。なぜ日本語を勉強しようと思ったのですか。

歴史と読書が好きで、高校生のとき徳川家康の本や川端康成や夏目漱石などの小説を中国語で読み、日本に興味を持ちました。中国では外国語の話せる人材を育てるという政策があり、その人材育成プロジェクトに選ばれたので、日本語を勉強してみようと思いました。

■中国では、日本のことを良く思わない人もいると聞きますが、実際のところは？

最近インターネットで情報を集められるので、日本に対して、特に若い世代は偏見等を持っていないと思います。悪い感情を持つことは何の利益にもならないので、友好関係を大事にしたいですね。ただ、日本人は、いつも相手を意識して注意深すぎるように思うこともあります。もっとオープンになって気軽に交流してほしいですね。

■草津市に設立された、外国人の機能別消防団員になったそうですね。どんな消防団なのです。

草津市には約2000人の外国人が住んでいるそうですが、災害が起こったとき、日本語が十分理解できなかったり、会話が難しかったりするために支援が必要になります。そこで、日本語ができる外国人が集まって、日本語のできない外国人を助けようと、草津市の呼びかけで結成されました。メンバーは中国人5人、ベトナム人3人、韓国人1人のあわせて9人で、そのう

ち7人が立命館大学びわこ・くさつキャンパスで学ぶ留学生です。

■王さんは、どのようにこの消防団のことを知ったのですか。

草津市国際交流協会がびわこ・くさつキャンパス内で留学生向けの日本語教室を開催しています。その教室の先生から紹介してもらいました。私はこの教室で勉強して日本語がだんだん上達してきたし、中国語と英語もできるので、いざというときに能力を発揮して社会に還元できるので、やってみようと思いました。

■どんな活動をするのですか。

今年9月1日の「防災の日」に任命式があり、その後9月下旬に救命救急の訓練がありました。このように、定期的に集まって訓練を受け、外国人に向けて防火指導や啓発活動に取り組んでいくことになると思います。実際に災害が起こったときには、避難所への誘導や通訳を担当することになります。草津市消防団本部からマニュアルももらいましたので、いざというときに備えたいですね。

また、活動だけではなくその背後にある考え方に感動しました。外国人のために災害に備える準備をし、組織を作るという心遣いがすごいと思いました。このような日本の制度や思いやりは素晴らしいと思います。

■中国の家族や友人にも、消防団に入ったことを伝えましたか。

●プロフィール●

中国山東省出身。大連市の大学で日本語、言語文化を学び、交換留学で2012年4月に来日。現在は立命館大学経済学部博士課程で研究を行っている。趣味はバドミントンで、大学内のサークルで楽しんでいる。今年9月に草津市の外国人の機能別消防団員となり、災害時に外国人を支援する活動に取り組んでいる。

はい。制服がかっこいいと言われました。また、日本はいろいろな制度が整っていて素晴らしいと言っていましたね。中国には消防隊はありますが、このようなボランティア的な消防団という組織はないので、参考になりました。

■今後はどんなことをしていきたいですか。

外国人と日本人との架け橋になりたいですね。消防団の活動に限らず、外国人が日本で暮らす中で日常的に困っていることに対して支援したり、地域の人と交流できればと思っています。

将来は、日本で学んだ経済のシステムや経験を活かして、中国の経済政策などに貢献できる仕事がしたいですね。中国は経済的に成長していますが、まだ制度的には十分整っていないところがあるので、日本から学んだことを活かしていきたいです。また消防団という仕組みも中国に持ち帰って伝えたいと思います。

「外国人の機能別消防団員」 ～草津市～

草津市で、平成27年(2015年)9月に、留学生を中心とした外国人の機能別消防団員*が任命された。団員には、同市内にキャンパスをもつ立命館大学の留学生等から母国語・英語・日本語が堪能で、日本の生活習慣や文化に理解の深い外国人有志が任命された。

一般的に、災害時には言葉の壁などにより「要配慮者」となると考えられている外国人自らが、被災者を支援する消防団員に任命されたことで、「助けを求める側」から「助ける側」へのシフトチェンジがなされ、防災

減災対策に繋がると注目が集まっている。

主な活動内容は、災害時の通訳・翻訳支援、避難時の情報伝達支援や安全な避難誘導、平時における外国人への防火指導や啓発活動等。

(※) 消防団員の確保が困難となってきた中、消防団活動の効率化を目指して団活動を分化し、それぞれの能力やメリットを活かして、特定の消防団活動に従事する機能別消防団員。

留学生や外国人の支援を目的とした機能別消防団員の制度は県内初。



▲救急救命訓練

冠婚葬祭に関わる風習やルールについては、暗黙の了解のもと、文化や伝統、宗教等によって様々な違いがあるようです。その中から今回は、お葬式を取り上げてみました。人生の最後を飾るお葬式。世界の人々は、人生の終幕をどのように迎えているのでしょうか？

■ブラジル

ホドリゴ プリンカさん(滋賀県国際交流員)

ブラジルの葬儀は、宗教によって様々ですが、一般的に喪服を着ることも焼香もありません。墓地近くの斎場の一室で、棺の周りに花や太いろうそくなどを飾り、参列者が故人に別れを告げ、親族にお悔やみを述べます。出棺直前にみんなでお祈りを捧げ、墓穴まで棺を見送ります。普通は、亡くなってから24時間以内に土葬します。

■アメリカ

上山 輝幸さん

(滋賀県ミシガン州経済交流駐在員)

故人がユーモア好きだった場合には、遺族が弔問客に楽しんでもらえるような演出を工夫されることがあります。また、故人が生前にお世話になった組織や施設(癌治療のための基金やポスピス等)へ寄付が行われることも少なくないと聞きます。

■中国

橋本 明郎さん

(滋賀県湖南省経済交流駐在員)

白黒の喪服を着るか、腕に白い布を巻き付け、花輪を持参して、3日～5日間法事を行います。屋外で爆竹を鳴らし(故人がこの世に執着せず成仏できるようにという意味がある)、故人の生涯を歌う習慣があります。お悔やみでは、亡くなった人に対して「死んだ」という言葉は使用せず、「老了人」(故人という意味)や「白喜事」(白い祝い事)という表現を使います。

■ケニア

大森 聖朗 さん(青年海外協力隊)

日本と同じように葬式では黒服での参加が原則であるものの、持っていない場合は、どのような服でも構わないようです。また香典のようなものを持参する必要もなく、何も持たずに参加します。ケニア人はとにかく踊ることが好きなのでイベントで踊ることが多いですが、お葬式では踊ることは禁止で、亡くなった方へのお悔やみの言葉を家族や親族に贈ります。

■ミクロネシア

森 光子さん(青年海外協力隊)

お葬式だけでなくすべてのセレモニーに共通ですが、蒸し焼き用の生きた豚、嗜好飲料のサカオを作るコショウ科の木、ヤム芋を持参して参加します。サカオは根に水を加えて石で叩き潰し、ハイビスカスの木の皮で絞ります。アルコールと反対で飲むほどに鎮静作用があります。まずはナンマルキと呼ばれる酋長から順に飲みます。

■エクアドル

田中 愛子さん(青年海外協力隊)

お葬式の前日、棺を囲んでパンとコーラを飲みながらお祈りや雑談をし、1～2時間ほどすると皆帰ってきます。その雑談の様子はなんだか楽しそう。始めはひっそり…でも次第にわいわいおしゃべりが始まります。次の日のお



葬式では礼拝をして、お墓に棺を持っていき、そのままお墓に収めます。

■ペルー

中橋 アレキサンダーさん
(青年海外協力隊)

お通夜に似た行事を約2日間行い、遺族の方と一緒に悔みます。お葬式当日は、黒装束で亡くなった方の家に集まり、棺を担いで教会に運び、礼拝をします。その後、墓地に棺を運び、埋葬します。なお、参列者は棺を担いでいる後ろに並び、歌いながら行進します。ペルーでの埋葬法は土葬がほとんどになります。

平成27年度海外技術研修員
滋賀県で頑張っています！



8月に受入を開始した研修員。今年は中国湖南省から観光分野と環境分野の専門家を、また、ブラジルからは獣医師を受け入れ、行政機関や動物病院等で研修を積んでいます。専門研修以外にも、滋賀県への理解をより深めるため、比叡山延暦寺見学や信楽での陶芸体験なども行いました。他にも、滋賀県ならではのプログラムと言えるフローティングスクールに参加し、「うみのこ」に乗船。小学生達と一緒に環境学習を行うなど、貴重な体験もしています。研修員達は12月まで滋賀県で学び、帰国後はそれぞれの専門分野での更なる活躍が期待されています。

外国人向け情報紙「みみタロウ」を以下の店舗に設置いただいております。ご利用ください。

●イオン長浜(専門店側入口を左) ●イオン近江八幡(1Fセントラルコート内) ●イオン草津(イオン北入口(琵琶湖岸・守山側)を左)

●会員募集のご案内

県民の皆様の当協会の活動に対する理解と幅広い参加をいただくために会員を募集しております。国際交流や多文化共生地域づくりに関心をお持ちの方、新しい出会いを求めておられる方のご入会をお待ちしております。

【会員特典】

- ・当協会主催イベント参加費の割引
- ・県内外国料理レストラン、琵琶湖汽船、旅行社等の利用割引、優待等
- ・当協会情報誌のお届け
- ・県内イベント案内のメルマガ配信
- ・国際情報サロン図書等や国旗の貸出サービスあり

【会費】

- ・学生会員 1口 年額 1,000円
- ・個人会員 1口 年額 2,000円
- ・団体会員 1口 年額 10,000円

<現在の会員数>

- ・個人会員 319人
- ・団体会員 90団体
(ともに平成27年9月30日現在)
- ・新規入会
個人8人 団体1団体
(平成27年7月1日～平成27年9月30日現在)
ご入会ありがとうございました。

ピアザ淡海1階のパスポートセンターで
パスポート申請をされる皆様へ

(公財)滋賀県国際協会では、パスポートを申請される皆さまの便宜を図るため、ピアザ淡海1階で、パスポート申請用の写真撮影を行っています。

どうぞ、ご利用下さい。

